

5/19 大阪府警による仲間3名の不当逮捕に 抗議し、6/5 現地闘争を呼びかける声明

2016.5.19

米軍Xバンドレーダー基地反対京都/近畿連絡会

本日、5月19日早朝、大阪府警公安3課は、米軍Xバンド基地反対「京都/近畿連絡会」の3名の闘う仲間を不当に逮捕した。これは5月2日、「詐欺容疑」で16か所の家宅捜索を行った弾圧の継続である。

5月2日、強制捜索の際に大阪府警が明らかにしなかった詐欺容疑の中味は、大阪・天満の「エル大阪(労働会館)」で米軍Xバンドレーダー基地反対やサミット反対の会議を行った際、自立労働組合連合の名義で会議室を借りた名義詐欺、又、「エル大阪」は労働組合に対して一般より安く部屋貸ししており、この差額の部屋代を詐取したというのが逮捕理由とのこと。

6/5京丹後現地闘争に対する事前弾圧であり、合わせて反サミットに対する予防弾圧に他ならない。全く不当な弾圧だ。

私たちは、非暴力直接行動で現地の住民と連帯して闘いを進めており、権力につけいる隙を与えない。デッチ上げやこじつけは権力の権威をおとしめ、安倍内閣の不当性を証明するものだ、ということ徹底的に暴露するものである。こうした不当弾圧を許さず、3名の早期奪還に向けた闘いを呼びかけ、みなさんのご協力をお願いします。

私たち「京都/近畿連絡会」は、この6/5 京丹後現地闘争を企画しみなさんに呼びかけている。この現地闘争は、沖縄から平和運動センター議長の山城博治氏をはじめ韓国、神奈川など全国から反基地の仲間が結集する最大級の取り組みを準備してきた。

京丹後・宇川地区では、運転開始と同時に地域住民は精神的・身体的苦痛を伴う騒音に悩まされ、運転開始後わずか3ヶ月で20件に及ぶ米軍関係者の交通事故があり、昨年12月25日には、軍属の車が赤信号で突っ込み、地元の青年が負傷した。米軍属は「自分は青だった」と引き下らず、結局、青年は生活のため裁判などしている余裕も金もなく、泣く泣く示談に応じさせられた。

こうした事態を打開すべく、日米地位協定の国内法適用改正、事件・事故への被害者補償制度の検討などが地元で進んでおり、私たちも全面支援の体制で臨んでいる。

しかし、京丹後のXバンドレーダーは、単に地元の「安心・安全」だけが問題ではない。3/7から4/30に行われた米韓合同軍事演習は、朝鮮民主主義人民共和国の金正恩委員長の斬首と武力による朝鮮半島の統一を目的に企画された。韓国軍30万人、米軍1万7000人、この米軍は沖縄普天間基地から海兵隊とオスプレイが、嘉手納基地からB2ステルス戦略爆撃機が、佐世保基地から強襲揚陸艦が、横須賀経由で原子力空母と原子力潜水艦が朝鮮半島に出撃している。この期間、経ヶ岬のXバンドレーダーは臨戦態勢でフル稼働し、日本政府もそして京丹后市もこの米韓合同軍事演習に事実上参加したも同然である。これが戦争法、集団的自衛権の危険な中味である。

既に特定秘密保護法やマイナンバーを強行し、今国会で刑事訴訟法の改悪で詐欺容疑などにも盗聴法の範囲拡大を目論み、戦前の治安維持法に匹敵する人権侵害の網の目を張り巡らしている。それだけではない。安倍首相は、衆参予算委員会で「私の任期中に改憲」と豪語している。今こそ安倍内閣の暴挙を人民「総掛かり」で阻止しなければならない。

沖縄の辺野古の闘い、原発全廃の闘い、戦争法廃止の闘い、消費税10%引き上げ反対の闘いなどどれをとっても人民の主権者としての立ち上がり街頭における直接行動、そして沖縄・韓国・本土をつないだ人民の国際連帯活動が安倍内閣打倒に向けて前進している。参議院選、衆議院選に向けて安倍内閣打倒の野党共闘の努力が積み上げられている。こうした人民の総掛かりの闘いを前にして安倍内閣は、沖縄・辺野古について京都・近畿で闘われている米軍Xバンドレーダー基地撤去、THAADミサイル配備反対の闘いを強権的に押しつぶそうとしている。

辺野古埋め立てを阻止し、京丹後のXバンドレーダーを撤去する闘いを更に前進させるため、大阪府警の組織破壊攻撃に団結して立ち向かい、6/5闘争を共に成功させようと呼びかけます。